

## 老いの日をいかに生き、支えるか〈2〉

## 往きの医療 vs 還りの医療

## —わたしたちはどんな死に方をしたいのか？

講師 島田 宗洋（救世軍清瀬病院名誉院長）

往きの医療とは、科学的根拠に基づく救命延命医療のことです。近年、超高齢社会の到来とともに人間学を基本に据えるホスピス緩和医療が大きな注目を浴びています。還りの医療です。第二次世界大戦後、科学的医療はめざましい発展を遂げました。その一方で、人間学的医療や医療倫理は置き去りにされてきました。わが国にホスピスが導入されて約35年が経過していますが、未だにその対象はがん患者さんだけだと誤解されています。諸外国では、がんのみならず、認知症、脳梗塞、慢性心不全など全ての終末期患者さんが緩和医療の対象です。また、多くの先進国では「リビングウイル法」（尊厳死法）が成立しています。最近では韓国や台湾でも同法が成立していますが、わが国では未だにこの法整備がなされていません。このような問題について、現場での経験を踏まえて一緒に考えてみたいと思います。

日時 2018年 7月7日(土) 13:30 ~ 17:30

場所 関西セミナーハウス TEL.075-711-2115 ※会場への地図は裏面をご覧ください。

参加費 2,300 円 学生 1,000 円 (コーヒー込み)

\*要申込み\* 7月4日までに Fax(裏面)、電話、電子メール、WEBフォーム等でお申し込みください。



島田 宗洋 しまだ むねひろ

1939年兵庫県に生まれる。東京大学医学部医学科卒、医学博士、国立小児病院心臓血管外科医長（埼玉医大、筑波大医学部、東大医学部非常勤講師を兼務）、その後、国立療養所多磨全生園循環器科医長を経て救世軍清瀬病院に入職、ホスピス緩和医療に携わって現在に至る。1906年、田原淳（たわら・すなお）は心臓が自律的に拍動するメカニズムを発見して「心臓刺激伝導系」と命名した。2000年、田原淳のドイツ語原著を須磨幸蔵先生と共に英訳〈The Conduction System of the Mammalian Heart〉してロンドン大学Imperial College Pressより出版、世界の主要図書館に寄贈。

これにより、田原のノーベル賞を超える偉業が世界史の闇に葬られる寸前に存亡の危機を回避。2003年「世界の心臓学を拓いた田原淳の生涯」（須磨幸蔵、島田宗洋、島田達生編著）をミクروسコピア出版会発行、考古堂書房発売。緩和医療に移ってからは、ドイツ・シュピーゲル誌に絶賛されてベストセラーとなった”Wie wollen wir sterben? (2010, DVA)に長い解説を付けて邦訳し「わたしたちはどんな死に方をしたいのか?」（2016、教文館）を出版、その後、リビングウイルと緩和医療についての啓蒙活動がわたしの使命と考えている。

◎スケジュール◎

- 13:30～15:00 発題講演  
 15:00～15:30 コーヒーブレイク  
 15:30～17:30 質疑とはなしあい



2018年度 修学院フォーラム

いのち 第2回以降、企画準備中

福祉 第1回 6月9日(土) 【共催/会場 京都YWCA】

「「貧困世代」の未来をどう創るか  
 ～若者の貧困を考える～」

講師：藤田 孝典 ((特活)ほっとプラス代表理事、聖学院大学人間福祉学部客員  
 准教授)

第2回 2019年2月16日(土)

「山室軍平って知っていますか—新島襄の福祉思想と「良心」の系譜」

講師：木原 活信 (同志社大学社会学部教授)

社会 第3回 6月30日(土)

「民族主義と普遍主義のはざままで：旧約聖書から国際平和を考える」

講師：月本 昭男 (上智大学特任教授)

第4回 10月6日(土) 宗教と戦争を考える〈6〉

「宗教改革者の戦争観」

講師：村上 みか (同志社大学神学部教授)



【申込み・問合せ】

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー  
 関西セミナーハウス活動センター

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23

<http://www.academy-kansai.org>

電話 075-711-2117

FAX 075-701-5256

電子メール office@academy-kansai.org

所長代行 榎本 栄次

担当 都木 (とき)

【会場へのアクセス】



\* 地下鉄烏丸線松ヶ崎駅、叡山電鉄修学院駅までワゴン車で送迎いたします。定員がありますので、ご希望の方は予めお知らせ下さい。地下鉄の最寄駅は松ヶ崎駅ですが、北山駅のほうがタクシーを拾いやすいです。

—————2018年度 修学院フォーラム「いのち」第1回 参加申込書—————

(フリガナ) 名 前	所 属
住 所 〒	
電話 ( )	FAX ( )
電子メール :	@
通信欄 :	